

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100064		
法人名	有限会社ながしま		
事業所名	グループホームながしま		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目1番3号		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念を共有し、ケアの質の向上を目指すと共に地域との交流にも力を入れております。</p> <p>災害時の体制についても近隣者の協力を得る体制を作っています。</p> <p>スタッフのスキルアップに力を入れています。(職場内、職場外研修の参加、資格取得に向けた勉強会の開催等)</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所と地域住民のコミュニケーションが良好に図られており、事業所や地域の行事が開催される際には、お互い交流が図られている。また、町内会の代表や民生委員の方とも積極的なかわりが保たれている。事業所の代表、管理者と職員のコミュニケーションも良好に図られており相談、課題解決に対応している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価まとめ	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念を提示し、常に把握出来るようにしている。又職員採用時や職員会議には、代表や管理者より説明をされている。又日々のケアでも理念を心がけている。	毎月開催される職員会議には全職員が参加し、その際に代表や管理者から理念について理解、説明を受け日々の業務やケアプランに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事等を通し交流しており、又地域でのリサイクル活動に参加する他、地域の交遊会へも招待していただき、買い物の中行き会った際も挨拶を交わしている。	事業所主催の行事には町内会にも参加を呼び掛け利用者と地域住民の交流が図られている。また、町内会の催しに事業所も案内を貰い参加している。事業所は町内会に加入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生を積極的に受け入れている他、突然の見学の場合でも施設案内や説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の年間の議題を参加者で検討しており、事業所の活動内容報告の他メンバーからの質問や意見、要望も聞きながら行っており、職員会議で報告されている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、町内会の代表、民生委員や利用者家族も参加され、会議の議題については事業所からの提案だけでなく参加者全員と話し合い、議題を提案し合いながら取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	災害時対策の他、疑問点など保険者に聞き確認を取りながら行っている。又運営推進会議録を毎回提出し連携に取り組んでいる。	管理者が市町村窓口に出向き必要書類や事業に関する運営相談をし、その都度指導を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針として、身体拘束はあってはならない事と職員会議で代表、管理者より説明を得ている。日中は玄関の鍵を掛せず、職場内研修で拘束、虐待について行われ、知識を得ている。又、事業所独自のガイドラインマニュアルも整備されている。	事業所の代表の方針により日中は玄関の施錠をせず見守りにて対応し、利用者は拘束されることのない生活を送っている。また、身体拘束についても研修しておりマニュアルも整備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修で虐待の種類等についての知識を習得しスタッフ1人ひとりが虐待が無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価まとめ	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している方が1名おり、成年後見制度を利用している利用者もおり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時オリエンテーションの時間をとりケアに関する考え取り組みの説明を行い、ご家族及び本人の意向を聞きケアに反映できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見要望を聞き反映出来るようにしており、意見箱の設置も行っている。又面会時に本人の状態を伝えながら行っている他、2ヶ月に1度状況報告書の送付の他、広報誌にも記載し意見を吸い上げられる様にしている。	利用者家族に状況報告書を送付し意見を頂けるよう取り組んでいる。また、事業所内に意見箱を設置し運営に関する意見の吸い上げに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全員参加の職員会議を実施し全員が意見を述べる機会を設けており、反映させるようにしている。	毎月開催される職員会議に全職員が参加できるように、開催時間については職員の業務に合わせた時間を考慮し開催している。代表や管理者とは日常的に相談できる環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の就業規則に基づいて整備している。又シフト希望等も考慮してくれ、希望の職場外研修への参加や資格取得の支援も行われている。又全職員による人事考課も実施中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外研修の他、介護福祉士資格取得に向けた勉強会を代表が開催し行ったり、職場外研修後は職員会議において参加スタッフから復命書報告も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会で開催の研修へ参加の他、交流会やビアパーティーへ参加し意見交換をしている他、実習生の受け入れ時もケアの再確認をし向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価まとめ	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い生活の状況の把握に努めている。入所後は必要とする事や不安を理解するようにし利用者の思いに傾聴し受容する事で安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めている事を理解した上で事業所として出来る事、出来ない事の説明をした上で次の段階へ繋げる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いの他、状況を確認し必要な支援に繋げる様にしており、早急な対応が必要と思われる場合には必要可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩という考えを共有しており、根本にある苦しみ、不安、喜びや心地良さを知る事に努め共に支え合いお互いが協力しながら和やかな生活が出来る様、場面作りや声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と一緒に支える為、ご家族との絆を考え利用者の様子や細かな変化に対し対応を考えると共に、ご家族から情報を頂いたりし、情報を共有し共に本人を支えていく為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	昔から利用している、床屋に行き続けている利用者や、昔から通っている病院に通院していたり、書店に行ったりご家族や友人が来園したり喫煙場所にて近隣住民と毎日の様に会話をしたりと、継続的な交流が続けられる様な体制が出来ている。	入居前から利用している書店や理髪店に、本人が希望すれば事業所でも対応し利用してもらい、昔からの馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。また、家族から状況確認のために電話があった際には利用者とも話をしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたりする他、月1回皆で昼食を作ったり利用者同士の関係性について情報を共有し利用者同士の関係が上手くいく様、スタッフが調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価まとめ	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方が遊びに來たり、ご家族が相談に來られた場合は出来る限りの情報提供を行い相談に乗ったりし継続的な付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、受容的態度で接しながら言葉だけでなく、表情、態度等も観察し、把握に努めている。又意思疎通困難な方にはご家族から情報を得る様にしている。	家族が面會に來た際に入居前の状況の情報提供を受け、また日々の状態変化を観察し本人の思いが把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に訪問した際、本人やご家族、関係者からの聞き取りの他、入所後はアセスメント情報や本人との會話の中から把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムを理解すると共に、体調の変化や生活、心理面にも注目し出来る事に目を向けその人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で意見を聞き、意見交換をしカンファレンスを行い介護計画を作成し変化が見られた場合は随時変更もしている。	日常の様子を計画作成者が吸い上げ、管理者や他のスタッフから意見を聞き計画作成している。毎月モニタリングを行い状態に変化があった際には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルの他、必要な場合は個別に食事、排泄、水分表を用意し、日々の暮らしの様子や気づきを記録スタッフ同士が情報を共有しながらケアプラン変更時にも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予定日以外の通院や買い物へも臨機応変に対応しており 本人、ご家族の状況に応じ外出や通院等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価まとめ	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様、町会長や民生委員には運営推進会議のメンバーになってもらい意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。ご家族が付添えない場合はスタッフが同行しており。又訪問診療にきてもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	入居前と同じかかりつけ医で受診できるよう、希望があれば事業所に対応し受診している。また、事業所とかかりつけ医が密に協力ができる体制に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が出勤して健康管理を行い、状態の変化に応じた支援を行っており、看護師が居ない場合でも記録や申し送りを基に確実な連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為に看護師やケアワーカーと話す機会を持ちなるべく早く退院出来る様アプローチしている。又、情報を医療機関に提供し、ご家族とも情報交換しながら回復状況等を把握し速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時「重要事項説明書」にて説明している。又終末に対する対応についてご家族、医師を交え話し合いを行ない事業所が対応し得る最大のケアについての説明を状態の変化がある毎にご家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い支援につなげている。又スタッフも知識習得に努めている。	重度化や終末期に向け協力病院から講義を受ける等、利用者やその家族の思いに応えられるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て蘇生術やAEDの使用法の研修を実施したが、未講習者もいるので今後講習できるよう支援する。又、緊急時対応マニュアルは整備されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し夜間想定も行い利用者の避難誘導をし、消防署と連携を取り訓練を行っている他消防設備会社の協力を得て火災報知機、消火器の使用法についての訓練も行っている。又、近隣の協力者も得ており緊急連絡網で周知されている。	火災を想定した避難訓練を年2回実施されており緊急時に備えている。また、緊急連絡網には地域住民の方からも協力が得られるよう体制が整っている。非常食の備蓄も必要な日数分確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価まとめ	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議において話される他、尊厳と言う言葉が介護理念に掲げられ、常に目に付く所において言葉掛けや対応について、意識向上を図る事が徹底されている。又日々確認している。	日常生活や介護場面で、個人・個別を意識し利用者に不快な思いをさせない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けをし意思表示が困難な方には手話を織り交ぜ表情を読んだりしている。複数の選択肢を用意したり自分で決める場面も作っている。又、出来る限り思いを引き出せる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った様な過ごし方はしていない。又買物や散歩等一人ひとりの思いに配慮しながら柔軟に対応できる体制となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には利用者本人に決めてもらっているが、季節に合っていないかったり、支援が必要な時に支援する様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オシボリや箸を配ってくれる方、食器を拭いてくれる方等と本人の出来る事を行って頂き、昼食のみ利用者と同じテーブルを囲んでいる他、月1回利用者とスタッフが準備から一緒に行う昼食会を行っている。	月に1度、利用者と職員が一緒になり準備から食事を作り、食事を楽しむことができるよう努めている。外食にも出かけ普段の雰囲気と違う食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量をチェック表に記録し、個別に必要な利用者は水分量も記録しスタッフが情報を共有している。献立は、関連事業所の栄養士が作成している。食事形態は個別に刻み食、ミキサー食等も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い残存能力に応じて見守りや介助を行い就寝前には義歯洗浄を行い必要があれば保管も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価まとめ	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間や習慣を把握しトイレ誘導する事で排泄を促す他、尿意を訴えない方は排泄表を活用し、パターンを掴み声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	利用者ごとに排泄パターンを掴み、オムツに頼ることの無いよう、トイレで排泄できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	朝食前、乳製品を提供したり、繊維質の多い食材を献立に取り入れたり、昼食前にラジオ体操を行う他、水分摂取等についても支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決まっているが、希望があれば対応出来る体制となっている。又、入浴を拒否した場合等は時間をずらす等の支援している。	入浴日は決まっているが、曜日にとらわれず利用者が希望すれば入浴できる体制となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促したりし生活のリズムを整える様に努め一人ひとりの体調や表情年齢を考慮しゆっくり休息が取れる支援をしている。又、利用者が望む格好で眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、処方箋を保管しスタッフがいつでも見ることができるようになっている。又、変更があった場合は申し送りをし、観察と記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮してもらえる様、出来そうな事を依頼し感謝の言葉を伝えている。又、嗜好品の煙草、コーヒー、アルコール等も本人の楽しみとして提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くへの外出の場合はあらかじめ計画を立て行く様にしており、近所の散歩等は本人が行きたいと言った場合車椅子でも対応出来る体制となっている。	事業所の近所に公園があり希望があれば外出できる体制となっている。また、家族からも協力があり定期的に家族と一緒に外出ができています。	

自己	外部	項目	自己評価まとめ	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小遣いを管理し外出や買い物の際、自分の財布から支払いをすることで社会性の維持につながっている。又お金を所持していない方でも外出時は自分で払って頂ける様、施設で立替し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、利用者がご家族等に電話を掛けたり、受けたりし、手紙も本人に書いて頂き、出せる様に支援している。又、年賀状にて遠方に住む知人との交流継続の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、飾り付けの物を一緒に作り飾ったりする事で、居心地の良い空間作りを工夫している。	廊下や共用空間に利用者が作成したジグソーパズルが複数掲示されており、それを掲示することで利用者の創作意欲を高めている。また、植物等も飾られており季節が感じられる空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前駐車場に椅子を置いている他、食堂にはソファ、洗面所前等にも椅子を置き一人で過ごしたり、好きな場所でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを置いたり、自宅で使っていたタンスや椅子以外でも、写真や人形、造花など使い慣れた持ち物を持ち込まれ居心地良く過ごせる様に配慮している。	居室には自宅で使用していた物を持ってきていただき、入居後も居心地が良く生活ができるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない床や、手すり等、安全である様に努め、残存能力を低下させない様、工夫をしている。		